

緑陰通信

News from the shade of trees

目次

- 「みどりの図書館フェスタ」を開催しました … P1
- 県立図書館トピックス … P5
- 県立図書館の事業を紹介します … P6
- 「名誉館長おすすめの本」コーナー … P8
- 県立図書館からのお知らせ … P8

※緑陰通信は県立図書館のホームページ
(<http://www2.lib.pref.miyazaki.lg.jp/>)からもご覧いただけます。

「みどりの図書館フェスタ」を開催しました

令和2年10月25日(日)に県立図書館研修ホール等において「みどりの図書館フェスタ」を開催しました。当日は、新型コロナウイルス感染症対策を講じた上での実施でしたが、参加された皆様の御協力のもと、盛況のうちに終わることができました。



神話の源流を語る会



宮崎県の神話や伝承等、価値ある言語文化に関心を持っていただくことを目的として、県立図書館では昨年度より「語り部スキルアップ講座」を実施してきました。今回、受講生の発表の場として、図書館フェスタの中で「神話の源流を語る会」を開催しました。

当館発行『みやざきの言の葉』の中に掲載されている日向神話をもとに、「語り部」の方々の「語り」と「ダンスパフォーマンス」

により、当館北側庭園、木立の中で神話の世界を表現しました。

出演者は、「語り部スキルアップ講座」の受講者、講座の講師を務められた池田知聡氏、池田氏が所属する劇団「サラみやざき」の劇団員とダンサーの方々です。

出演者は、個々人で稽古を積むとともに、8月からの4回の全体練習を通してこの日に臨みました。全体練習では、より表現が伝わるように、アクセントやイントネーションの細かいチェック、立ち位置や動きの確認が入念に行われました。

当日は天候に恵まれ、秋の木漏れ日の差す中、「スキルアップ講座」で培った語りの表現力とともに、あえてアイルランド神話と関連のある「ケルト音楽」を用いた演出により、独特な日向神話の世界を醸し出していました。

感染症対策のため、座席は間隔を空けて24席設置しましたが、開演前には満席となり、その後は多くの立ち見の方々にもご覧いただきました。



「本で世代をつなぐ」読書活動推進事業 ～伝えたい! 教えたい! 私の一番好きな本～ 150字作文 大賞受賞者表彰式



当館では、読書離れの傾向が見られる中・高生を中心に各世代を対象に、本の魅力に触れ、生きる力や創造力を育む機会を提供し、世代をつなぐ読書活動を推進するため、6月から7月にかけて、一番好きな本に対する思いと、それを伝えたい相手に関する150字作文を募集しました。

応募総数は過去最高の3,201作品(内訳:小学生の部788作品、中学生の部1,173作品、高校生の部1,178作品、一般の部62作品)でした。たくさんの御応募ありがとうございました。

選考の結果、入選者20名、うち大賞受賞者8名が選ばれました。どの入選作品も、一番好きな本に寄せる熱い思いだけでなく、その向こうに大切な誰かを思う気持ちが表現された素晴らしいものばかりでした。

みどりの図書館フェスタでは、大賞に選ばれた8名の方々の表彰式を行いました。



講評では、最終選考者である歌人・大口玲子先生が、受賞者お一人お一人に対して、特に心を打たれたことなどを温かい眼差しでお話いただきました。

その後、厳かな雰囲気の中、表彰状授与・図書カードの贈呈がありました。受賞者の皆さんは緊張された面持ちでしたが、写真撮影時には笑顔も見られました。

また、1階ロビーでは10月20日(火)から25日(日)にかけて、入選者20名の作品と関連書籍の展示を行いました。多くの方が足を止めて見ていました。

入選作品は、小冊子にまとめ、県内全ての学校、市町村立図書館等へ配布します。

大賞受賞者

【小学生の部】

敬称略

氏名	学校名	学年	図書名	著者名	出版社	伝えたい・教えたい相手
甲斐 凰士郎	諸塚村立七ツ山小学校	1年	ぼくはざりがに	武田 正倫	ひさかたチャイルド	おかあさん
荻生 ひなた	新富町立富田小学校	3年	心ってどこにあるのでしょうか?	こんの ひとみ	金の星社	お父さん

【中学生の部】

氏名	学校名	学年	図書名	著者名	出版社	伝えたい・教えたい相手
佐藤 美桜	宮崎西高等学校附属中学校	1年	機関車先生	伊集院 静	講談社	友達
小林 花代	日向市立美々津中学校	3年	「手紙屋」蛍雪篇 私の受験勉強を変えた十通の手紙	喜多川 泰	ディスカヴァー・トゥエンティワン	受験生の友達

【高校生の部】

氏名	学校名	学年	図書名	著者名	出版社	伝えたい・教えたい相手
佐坂 胡実	五ヶ瀬中等教育学校	4年	星やどりの声	朝井 リョウ	KADOKAWA	家族
甲斐 優那	延岡高等学校	2年	ぼくのニセモノをつくるには	ヨシタケ シンスケ	ブロンズ新社	家族・友達

【一般の部】

氏名	居住地	図書名	著者名	出版社	伝えたい・教えたい相手
清水 眞名	西米良村	医者井戸を掘る アフガン早魃との闘い	中村 哲	石風社	我が子
瀬川 華江	宮崎市	くつついた	三浦 太郎	こぐま社	子育て中の親御さん

楽しいおはなしかい みんなでおはなしを楽しもう！



今年のおはなしかいは参加者も読み手もいっしょに楽しめるようなプログラムを用意しました。

最初は、イソップ童話の名作『きたかぜとたいよう』のエプロンシアター。エプロンのポケットから次々に飛び出すしかげや北風の力強い歌声に興味津々の子どもたち。北風の冷たさや太陽の温かさを感じながら、絵本とは一味ちがうお話を味わうことができました。

2番目は、大型絵本『どうぞのいす』。本物そっくりの「どうぞのいす」を用意してみました。「どうぞならば…」と「どうぞ」が連鎖していく、動物たちの心温まる物語にどっぷりひたることができましたことでしょう。

3番目は、『ねこのおいしゃさん』のパネルシアター。森の中の病院へ、動物たちが、病気やケガを治してもらおうと次々にやってきます。ねこのおいしゃさんが、「にゃ〜!」と掛け声をかけるとたちまち病気やケガが治ります。途中からは、参加者のみなさんも「にゃ〜!!」と元気な掛け声をかけて、一緒に治してくれました。



最後は、大型絵本『ぜったいにおしちゃダメ?』。絵本に登場するボタンと同じボタンを手渡され、「ぜったいにおしちゃダメ。」と言われて、恐る恐る手にしていた子どもたちも、「おして。」「もっとおして。」と言われて押ししてみると…。まるで、お話の登場人物の気持ちになれたようでした。



一緒に歌を口ずさんだり、セリフをつぶやいたり、参加されたみなさんも読み手も一体となった楽しいおはなしかいでした。

おはなしかいでつかった絵本を紹介します。ぜひ読んでみてください。



書名	著者名	出版社
きたかぜとたいよう	バーナデット・原作 もきかず・絵	西村書店
どうぞのいす	香山美子・作 柿本幸造・絵	ひさかたチャイルド
ねこのおいしゃさん	ますだゆうこ・ぶん あべ弘士・え	そうえん社
ぜったいにおしちゃダメ?	ビル・コッター・さく	サンクチュアリ出版

データベースパネル展示



1階ロビーでは終日、データベースパネル展示を実施しました。

当館では、官報や宮崎県の郷土紙デジタルアーカイブなどのデータベースを利用者の方々に提供しています。

以下のデータベースは4番カウンターに申し込み後、操作可能です。是非ご利用ください。

- 官報情報検索サービス(官報の検索)
- D1-Law(判例と要旨・解説 文献検索)
- Japan Knowledge Lib(ジャパナレッジLib)(事典雑誌記事検索)
- Magazine Plus(雑誌記事・論文の検索)
- ルーラル電子図書館(農業関係記事検索)
- 宮崎県郷土紙デジタルアーカイブ(郷土の新聞記事検索明治26年~平成27年)

優良読書団体表彰式



図書館フェスタで、公益社団法人読書推進運動協議会の優良読書グループ表彰伝達式を行いました。

今回受賞された団体は、小林市で活動されている野尻町読み聞かせグループ「たんぼぼ」です。平成11年に絵本の読み聞かせと昔話を通じて地域の絆が深まることを目的に創設され、以後21年間継続して活動してこられました。「地域ふれあい読書」を目標に掲げ、小林市野尻地区の全ての小・中学校、幼稚園や保育園での「朝の読み聞かせ活動」や「おはなし会」を行ってこられました。また、夜の図書館クリスマス会など、小

林市立図書館の様々な行事への協力や、市内の高齢者施設での読み聞かせや語りなども行われ、長年にわたって幅広い年齢層を対象とした活動を続けておられます。

表彰後は、「おによりつよいおよめさん」のストーリーテリング、「へびくんのおさんぼ」の大型絵本の読み聞かせを実演していただきました。21年間という実績どおり、思わずストーリーに引き込まれるような表現力に、参加者全員が夢中になっていました。大変素晴らしい実演を披露していただき、ありがとうございました。今後も、益々のご活躍をお祈り申し上げます。



ミニコンサート～ジャズの生演奏～



ミニコンサートでは、宮崎県内で活躍されている「M&J」にジャズの生演奏を行っていただきました。「M&J」は、ボーカル、ピアノ、ベース、ドラム、アルトサクソ、テナーサクソで構成されているグループです。

開始時間前、演奏を楽しみにされていた県民の方々が続々と入場され、すぐに定員に達しました。美しい歌声に、息がぴったり合った演奏が重なり合い、研修ホールには素敵な時間が流れました。人気のある「Fly Me To The Moon」や「Over The Rainbow」など、合計8曲を演奏していただき、大

人から子どもまで楽しめるコンサートでした。会場で鑑賞された方からは、「素晴らしい演奏で感激しました」「やさしい音色にとっても癒やされました」といった感想が寄せられました。

「M&J」の方々は、この演奏のために朝早くから来館され、セッティング、リハーサルを入念にされて本番に臨んでおられました。今後も、県内の至る所で演奏し、素敵な音楽を届けてくださることと思います。素晴らしいコンサートをありがとうございました。

その他イベント



リサイクル工作教室 牛乳パックで万華鏡を作ろう！

研修室では、環境情報センターの職員によるリサイクル工作教室が開かれました。子ども達が紙に描いた絵を内側にして筒状に丸め、先端に銀紙を貼った牛乳パックの中に入れると、絵が反射して万華鏡のように色々な動きを見せます。子ども達は真剣に、そして生き生きとした表情で、自由に好きな絵を描いて工作を楽しんでいました。

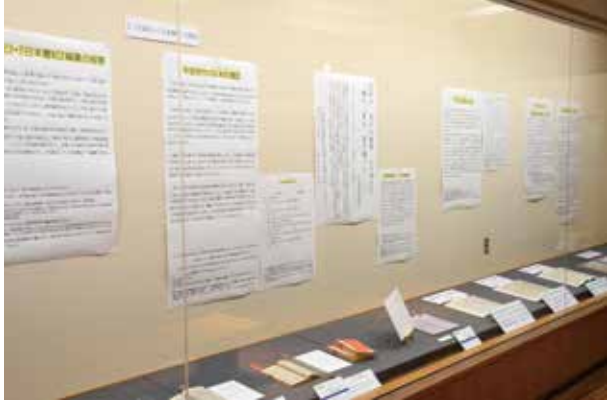


健康に関する相談会

1階ギャラリーと2階ロビーでは、保健師や看護師の方々にご協力いただき、「まちの保健室」と「がんに関する相談会」を実施しました。

■特別展「古事記・日本書紀～私たちの源流を訪ねて～」

県立図書館では、9月5日(土)から10月4日(日)まで、特別展「古事記・日本書紀～私たちの源流を訪ねて～」を開催しました。『古事記』・『日本書紀』の成立事情や、二つの書物が日本の歴史の中でどのように読み継がれてきたのかを紹介しました。



『古事記』は、その序文によると、天武天皇が、過去の天皇の系譜や業績などを記した記録に誤りが多いことから、正確な歴史を記述するために編纂事業を開始しました。しかし、天武天皇が崩御したため、事業は中断してしまいます。奈良時代の元明天皇が編纂事業の再開を命じ、712年に『古事記』が完成しました。神代の時代から推古天皇の時代までの歴史を、漢字の訓や音を用いつつ表記しています。

一方の『日本書紀』は、681年3月に編纂作業が開始され、同じく奈良時代の720年に完成しました。神代の時代から持統天皇の時代までの歴史を漢文で記しています。

天皇を中心とする古代律令国家の形成が目指されるなか、天皇による統治の由来や律令国家の形成を国内外に発信する必要性から、『古事記』・『日本書紀』の編纂が目指されたのでした。

平安時代になると、『日本書紀』の講読会が開催されるようになります。講読会では、『古事記』などを参考にしながら『日本書紀』の漢文の読み方を決めていました。また、『日本書紀』の神話の解釈を通して、新たな神話が創造されていきます。こうした動きは中世以降活発になり、軍記物語や仏教説話集などで神話が自由に語られるようになりました。

ところで、近世以前においては『日本書紀』が重視され、『古事記』はなかなか注目されませんでした。このような流れのなか、『古事記』の重要性を説いたのが江戸時代中期の国学者本居宣長です。本居宣長は『古事記』こそ古の心や言葉を正確に伝えていると説き、『古事記』全巻の注釈書『古事記伝』全44巻を執筆しました。本居宣長の皇国意識は尊王攘夷を主張する水戸学へと発展し、こうした思想を背景として、ペリー来航に伴う幕末の混乱期、幕府に代わる存在として天皇が注目されるようになり、明治新政府の誕生へとつながっていきました。



【『古事記伝』 もとおりのりなが 本居宣長 著】

第二次世界大戦後、記紀研究は考古学や外国文献、出土文字資料の研究成果を取り入れながら進展していきます。平城京(現在の奈良県北部)を中心に全国で木簡が出土し、その解読から『日本書紀』が事実をそのまま記載しているのではなく、一部の記事が後世の知識で潤色されていることが明らかになっています。新たな発見で、今後記紀の歴史はどのように変化するのか…記紀研究の進展が期待されます。

なお、会期中多くの方々にご観覧いただきました。この場を借りてお礼申し上げます。ありがとうございました。

■ 野間読書推進賞～本県から読書団体「おはなしの木」が初受賞～



本県の読書団体で県立図書館でも長年おはなし会を行っていた「おはなしの木」(宮崎市、土田さゆき代表)が、2020年度・第50回野間読書推進賞(団体の部)を受賞しました。

野間読書推進賞は、公益社団法人読書推進運動協議会が1971年に設立した賞で、地域や職域などにおいて、読書の普及に長年力を尽くし、読書推進運動に貢献した個人や団体に贈られる賞です。

今年度は、「おはなしの木」を含め、全国で3団体が受賞しました。本県からの受賞は初となります。

「おはなしの木」は、1986年(昭和61年)に、読み聞かせやストーリーテリングを通じて、子どもたちに本を読むことの楽しさを伝えるために設立されました。設立以来、県立図書館や県立宮崎病院小児病棟での週1回のおはなし会を30年以上続け、子どもたちに本を読む楽しさを伝えてこられました。そのほかにも、県内の幼稚園・保育園、小中学校や木城えほんの郷でのおはなし会や、保護者を対象にした読み聞かせ講座の開催等、活動の場は多岐にわたっており、活動の広がりには県内随一です。

去る令和2年11月6日(金)に東京都の出版クラブビルにおいて行われた表彰式には、前野麻美子副代表が出席されました。受賞のあいさつでは、活動への思いや苦勞について語られ、その取組について、多くの方々からの賛辞をいただきました。



県立図書館の事業を紹介します

県立図書館は、一般的に図書館の業務としてイメージされる本の貸出のほかに、専門書や地域資料の収集・保存、市町村立図書館の支援、県民の調査相談・課題解決の支援といった重要な役割を担っており、様々な事業を行っています。その一部をご紹介します。

■ 県立図書館への寄贈について

図書館の資料収集の方法の一つに、「寄贈」というものがあります。これは、新刊や個人で所有している本などを、図書館に譲り渡してもらうものです。

ホームページでも紹介していますが、県立図書館では、特に郷土に関するものを重点的に収集・保存しています。

例えば、著者や出版者が宮崎県にゆかりのある方、また、内容が宮崎県に関するものなどです。自宅にそのような本がありましたら、事前に御連絡いただきますと本の内容などをお聞きして、当館が所蔵していないものは収集していきたいと考えています。

寄贈の際は、「寄贈申出書」が必要ですが、これは、図書館に来られたときに記入していただきます。ホームページからでもダウンロードができますので、御利用ください。



今年度も、郷土に関する本の寄贈がありました。今回はその一つを紹介させていただきます。それは、日向市日知屋を舞台に、鎌倉から戦国時代の伊東家の歴史にちなんだ紙芝居で「日知屋物語」全4編と「舞鶴伝説」1編です。

史実や伝承を基に物語とイラストを制作された方からの御寄贈で、写真は「日知屋物語」の一つと「舞鶴伝説」の表紙です。

県立図書館はこれからも、県民の皆さまからの、郷土に関する資料の情報提供をお待ちしています。

問合せ先 総務・企画課 資料管理担当 電話 0985-29-2970

■ 市町村立図書館への訪問支援について

県立図書館では県内45の全ての公立図書館・図書室を訪問する「定期訪問」を、毎年行っています。これは、県立図書館が県内の公共図書館の実態を把握し、それぞれの図書館・図書室に応じた支援を行うことで、県内の読書環境の整備を図っていくことを目的としています。

本年度は、6月から10月にかけて全ての図書館・図書室の訪問を実施しました。今回は図書館をリニューアルした美郷町立西郷図書館と新しくオープンした椎葉村図書館「ぶん文Bun」の紹介をします。

美郷町立西郷図書館は、西郷ニューホープセンターの中に設けられ、9月にリニューアルオープンしました。一般フロアの他に、展示フロア、交流フロア、くつろぎスペースが設けられ、ふんだんに使われた美郷町の木材が気持ちの良い空間をつくっています。

椎葉村図書館「ぶん文Bun」は、椎葉村交流拠点施設Katerieの2階に設けられ、椎葉村の新しい知の拠点として7月にオープンしました。椎葉村の風土を生かした、分類・排架・選書や、利用者が心地よく過ごすための環境の整備など、随所に特色が見られます。

県内の公共図書館・図書室は県民の皆様のご利用を心からお待ちしています。ぜひ、それぞれの図書館・室へ足を運んでみてください。



【美郷町立西郷図書館】



【椎葉村図書館】

■ レファレンスサービスについて

『レファレンスサービス』とは、調査・研究に必要な本や情報の紹介をしたり、本や論文等を探すお手伝いをしたりするサービスのことです。

「〇〇について知りたいのですが、どんな本に載っていますか？」

「〇〇の論文を探して欲しいのですが。」など、資料を探すときや何かを調べたいときは、閲覧室4番カウンターにご相談ください。

なお、古文書や文献の解説、宿題やクイズの回答、法律・身上相談、美術品等の鑑定、研究・調査の代行等については、受け付けておりません。ご了承ください。

また、県外にお住まいの方からのお問い合わせについては、郷土（宮崎県の人物・歴史・地理等）に関するものについてのみ受け付けております。



令和2年度
レファレンス
紹介

- ・平和台公園の塔に使われている石の数や像について調べる資料はないか。
- ・中国語で書かれた本はどのようなものがあるのか。
- ・農業関連雑誌に『干し野菜特集』があった。何月号か調べてもらえるか。
- ・明治期にコレラが流行した時の宮崎県の状況が分かるような本はないか。

レファレンスサービス 問合せ先(4番カウンター)

電話 0985-29-2972 FAX 0985-22-9070

メール soudan@miyazaki-pref-lib.jp





「名誉館長おすすめの本」コーナー

当館の伊藤一彦名誉館長のおすすめの本です。



『中国書道遊覧』 菅原教夫／著 芸術新聞社 2020年

著者は読売新聞東京本社で人気の書道コラムを連載。この本は北京、西安他をめぐり、各地の書道家と交流した旅を記している。著者に常に同行しているのが、宮崎市出身の日本を代表する書家・篆刻家の師村妙石氏。書道や中国に関心をもつ人に有意義な本だが、師村氏の中国での業績や活躍を知ることにもできる。師村氏は早くに宮崎県文化賞を受賞し、他にも多くの受賞がある。



『大江健三郎全小説全解説』 尾崎真理子／著 講談社 2020年

『大江健三郎作家自身を語る』

大江健三郎／著 尾崎真理子／聞き手・構成 新潮社(新潮文庫) 2013年

尾崎真理子氏は宮崎市生まれで、文芸評論で活躍する早稲田大学文学学術院教授。宮崎県文化賞を受賞している。戦後を代表する作家の大江健三郎を理解するために大いに役立つ2冊である。



県立図書館からのお知らせ

■図書館システムの更新について(令和3年3月)

今年度、県立図書館では図書館システムの更新を行い、3月から新たなシステムを導入します。また、OPAC(資料検索機)・インターネット・データベース用パソコンなど機器の入れ替えも予定しています。

基本的にはこれまでどおりご利用いただけますが、システムの更新に伴い、ご利用される方々にとって、より便利な機能が加わります。例えば…

●Web上で貸出延長ができるようになります

これまで、貸出期間の延長手続きは、カウンター窓口と電話でのみ受け付けていましたが、システム更新後は、県立図書館ホームページから「マイライブラリ」にログインすると、貸出延長の操作をご自身で行っていただくことができます。

※ 貸出延長の対象となる資料は、返却予定日の前日以降かつ予約が入っていない当館所蔵の資料に限ります。

●インターネット用パソコンで音声読み上げ機能をご利用いただけるようになります

閲覧室に4台、児童室に2台設置しているインターネット用パソコンに、音声読み上げ機能が追加されます。視力の弱い方や、活字を読むのが困難な方にも、インターネット用パソコンをご利用いただけるようになります。

特別整理期間のお知らせ

県立図書館では、2月に特別整理期間を定め、連続した休館日を設けています。この期間に図書館システム更新作業を行います。

【特別整理期間】

令和3年2月17日(水)～3月1日(月)



県立図書館の資料の購入には、宝くじの収益金の一部が使われています。 宮崎県

ご利用案内

開館時間 ■一般閲覧室：9:00～19:00
■児童図書室：9:00～17:00

休館日 ■毎週月曜日(祝日の場合翌日)
年末年始：12/29～1/4
特別整理期間：2/17～3/1

編集・発行

宮崎県立図書館

所在地 ■〒880-0031 宮崎市船塚3丁目210番地1
TEL ■0985-29-2911(総務・企画課)
FAX ■0985-29-2491(総務・企画課)
HPアドレス ■<http://www2.lib.pref.miyazaki.lg.jp/>

